

ごあいさつ

# 次世代へ、建学の精神を引き継ぐ。 矢野建一 第16代学長

9月1日に専修大学 第16代学長に就任いたしました矢野建一です。就任にあたって、ごあいさつ申し上げます。

学長という仕事は、大変な仕事であると感じています。いままでのように学問・研究だけではなく、今後は大学のマネジメントが大きな比重を占めますが、誰かがやらなければならない。ならば、専修大学の卒業生でもある、私の使命ではないだろうかと考え、日高先生より学長職のバトンを受け継ぎました。

専修大学は、今年で創立134年になりますが、急速に進行する少子高齢化、閉塞化などを受け、大学運営は非常に難しい時代に入ってきたと痛感しています。そうした背景を踏まえ、大学と「校友会」そして「校友会」が、力を合わせていきたいと考えています。ちなみに、私も「校友」の一人として、校友会学友支部長を務めています。

専修大学は創立当初に比べると、学生数・教員数ともに大きく発展しました。本学の研究成果についても、高い評価を得ておりますが、今後はいっ以上に質の向上を目指します。実現に向けて、教員の責任は大きいと考えています。

在学していた頃を振り返ると、自分も当時の先生方に厳しく鍛えられたことを思い出します。在学中、あるいは卒業した当初は気がつかず、年月がたつてから理解することも多々あります。先生の教えは、いまも私の中で生きています。

こうした専修大学の良き伝統を受け継ぎながら、時代や社会に合わせて「教育」も変化が必要であると考えています。平成20

年12月、中央教育審議会により学士課程教育の見直しが行われ、本学でも議論を重ねた上で、大きな方向性を決めました。いままでの教養教育と専門教育から成る、学士課程カリキュラム全体を大きく改革します。たとえば、複讎化する現代社会を様々な視点や広い視野から理解するために、教養科目と専門科目を結ぶ「融合科目」を設けるなど、新しい試みにもチャレンジして教育の充実度を上げていきたいと考えています。内容も専修大学らしい、より個性的なものを目指しています。

さらに、1年次には「専修大学入門セミナー」を設けます。私学には、それぞれ独自の建学の精神があります。入学した学生たちに、まず専修大学の歴史をはじめ、本学で学ぶことの意義などを理解してもらうことから始めたい、という思いを込めています。

創立以来、本学の歴史と伝統のバトンは、数多くの諸先輩により、一世紀以上にわたって受け継がれてきました。私は学長として、このバトンを実に、着実に150年、さらにその先へと手渡していきたいと考えています。

そのために、実施すべきことの一つは、学内外への情報発信力の強化です。本学では各学部やセクションでシンポジウムをはじめ、さまざまな催しが行われていますが、全学的なまとまりには、やや欠けているように感じます。今後は専大スポーツやOBの活躍、本学の研究成果などの情報を、学生、校友、校友の皆さんおよび広く社会に向けて、効果的に発信する「戦略的広報」を推進していきたいと考えています。(誌)



生 1941年●1972 (昭和47) 年、文学部人文科学科卒業。1949年学生部長、退任後出版。1960 (昭和35) 年、立教大学大学院文学研究科修士課程卒業。文学博士。1962年、専修大学文学部助教授。1965年、同教授。2005年、文学部長 (一任) 就任。同年、学校法人専修大学理事 (一任) 就任。専修大学日本近代史学会会長、専修大学校友会、専修大学文学部学友支部長、専修大学文学部学友支部長。

(9月12日刊 巻頭カラーページ、敬称略にて)